

令和5（2023）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修Ⅱ③ 実施報告

実施日：令和5年11月1日（水）

当研修は、社会の要請に応じた生涯学習・社会教育行政を推進するために、各自治体で取り組むべき施策の方向性に関する知識や新たな取組を展開するのに必要な技術の習得を目指すことをねらいとしています。

第3回は、これからの生涯学習・社会教育行政が目指すべき新たな施策の方向性にある「障害者の生涯学習の推進」に関する基本的な知識を得ることを目的としてオンライン（Zoom）で実施し、生涯学習・社会教育主管課や公民館・市民センターの職員等10名の方が参加しました。また今回は、小山市社会教育委員会議の委員13名も参加しました。

○ 説明「社会的包摂に向けた施策展開～障害者の生涯学習の推進～」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事 大越 真二 氏

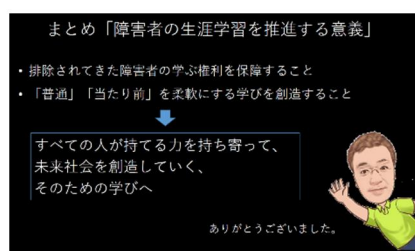
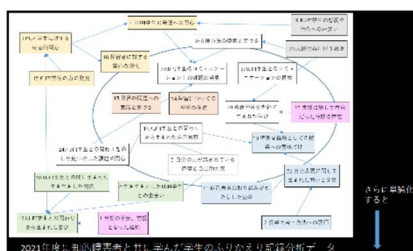
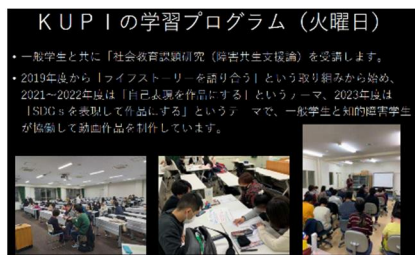
大越氏からは、国の施策の取組、栃木県の推進の方向性、県内の取組事例について話がありました。国の施策では、第3期教育振興基本計画（対象期間：平成30年～令和4年）に続いて「第4期教育振興基本計画」（令和5年6月閣議決定）にも基本施策として「障害者の生涯学習の推進」が掲げられていると説明がありました。また、本県の話では、第35期栃木県社会教育委員会議の報告書（障害者の学びを支援する社会教育の推進方策について）に関する話と県内の取組事例の紹介があり、受講者は真剣に聴いていました。

○ 講話「障害者の生涯学習を推進する意義と現状」

神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 津田 英二 氏

津田氏は社会教育論、生涯学習論、インクルーシブ社会支援論が専門であり、国の委員として文部科学省「障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方検討会」では座長を務め、生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究有識者アドバイザーも務めるなど、「障害者の生涯学習の推進」に造詣が深い先生です。また、平成31（2019）年からは神戸大学附属特別支援学校長を兼務しています。

今回は、津田氏から神戸大学の「学ぶ楽しみ発見プログラム」（KUPI）での知的障害のある受講者の活動の様子や成果物、参加する大学生の変容について、兵庫県内で実施した調査結果から分かったこと、国と兵庫県における障害者の生涯学習の推進政策、障害者とともに生きるための学びについて話がありました。最後にまとめとして、健常者には「普通」「当たり前」という枠（先入観）を柔軟にする学びが必要であり、その学びを地域コミュニティ全体へ広げる取組が必要であるという指摘に、受講者は熱心に耳を傾けていました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・改めて、障害者のおかれている学習環境（機会、体制等）について、気付かされました。また公民館等で事業を企画し、参加者を募集する際に、「障害のある方の参加」を想定していることは少ないのではないかと思います。まずは「障害のある方の参加」を前提に各種講座や事業を考えていくこと、そして学びの場の門戸を開いていくことが重要であると思いました。
- ・今まで知的障害者と健常者が共に学ぶことには無理があると思っていました。しかし、神戸大学の事例を見て、方法を考えることでお互いに意義のある学びを実践することができたと学びました。今後、障害者の学びのニーズを把握して、それに見合った関わり方を模索していけたらよいと思いました。
- ・津田先生が示した障害者の生涯学習事業の事例がとても参考になりました。来年こそ、具体的に公民館での障害者の生涯学習に関する事業をやりたいと思います。
- ・いろいろと考えながら、同僚と相談しながら、「障害者と共に生きるための学び」を進めていきたいと思いました。
- ・障害者と共に学び生きていることを改めて理解しました。また、講座を企画する上での具体的な進め方について学ぶことができました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

